

【損益分岐点】

そんなき
ぶんきてん

「損益分岐点」とは、売上と費用が等しく、損益がゼロになる売上高のことです。「分岐点」という言葉のとおり、会社が赤字（損失が出る）になるか黒字（利益が出る）になるかの分かれ目になります。

損益分岐点の計算方法

損益分岐点は、固定費の額を限界利益率で割って計算します。「固定費」とは売上に関係なく発生する費用で、店舗等の家賃や固定の給与、会社が所有する不動産の固定資産税などが該当します。

一方、売上に連動して増減する費用を「変動費」といいます。変動費には材料費や加工費、歩合制の給与や販売手数料などが該当します。

売上高から変動費を引いたものを「限界利益」といいます。「限界利益率」とは、売上高に占める限界利益の割合です。たとえば、毎月105万円の固定費があるA社の限界利益率が20%だとすると、1

05万円×20%＝525万円がA社の損益分岐点になります。なお実務上、限界利益率の代わりに粗利率、固定費の代わりに販売管理費を使い簡便的な計算を行なうこともあります。

損益分岐点位置率

「損益分岐点位置率」は、実際の売上高に対する損益分岐点の割合をみる指標です。損益分岐点の売上高を実際の売上高で割って計算します。

A社の例では、売上高が600万円の場合、525万円÷600万円＝87・5%が損益分岐点位置率になります。

損益分岐点位置率は、数値が小さいほど、売上高の減少に対して赤字耐性が強いとみることができま

す。売上高（100%）から損益分岐点位置率を引いた数値が赤字になるまでの余裕を示し、A社の例では、12・5%売上高が減少すると黒字が維持できないことになります。

担当者なら知っておきたい

第8回

「経理用語」



(株)CFO代表
税理士・
米国公認会計士
高橋 和徳

【ROA】

アールオーエー

ROAとは、リターン・オン・アセットの略で「総資産利益率」と訳されます。会社の収益性を測る指標で、総資産（自己資本と他人資本を合わせた資産）に対する利益の割合から、資本をどれだけ効率的に使用して稼いでいるかをみます。なお、「自己資本」とは株主からの出資など返済する必要のないもので、「他人資本」とは金融機関等から借り入れた返済の必要があるもののことをいいます。

ROAは、利益が多いほど大きくなり、総資産が増える小さくなります。

売上高利益率と総資産回転率

ROAは「利益÷総資産×100」で算出しますが、「売上高利益率×総資産回転率×100」から求めることもできます。

「売上高利益率」は売上高に対して利益がどの程度あるかをみる指標で、「利益÷売上高×100」で算出します。

「総資産回転率」は、1年間の売上が総資産を何回転しているかをみる指標で、計算式は「売上高÷総資産」です。売上高利益率と総資産回転率を上げることが、ROAを改善することができます。

ROEとROI

ROEとは、リターン・オン・エクイティの略で「自己資本利益率」と訳されます。会社が自己資本に対してどれだけ利益を生み出したかをみる指標で、会社が資本を効率よく活用して利益を上げているかを測ります。「税引き後利益÷自己資本×100」で算出します。

ROIとは、リターン・オン・インベストメントの略で「投資利益率」と訳されます。投資に対してどれだけ利益を上げられたかを測る指標で、「利益÷投資額×100」で算出します。

これらの指標は投資判断の際によく用いられます。